

■リスク情報

- ◎投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。
- ◎投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。

■手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金(解約)時にご負担いただく費用>

お申込手数料	上限3.675%(税抜3.5%)
換金(解約)手数料	上限1.05%(税抜1.0%)
信託財産留保額	上限1.0%
スイッチング手数料	上限0.21%(税抜0.2%)

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬	上限2.9975%(税抜2.95%) 一部のファンドについては、運用成果等に応じて成功報酬をご負担いただく場合があります。
その他費用	組入る有価証券の売買委託手数料、監査費用、借入金の利息、立替金の利息 など

- ※その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
- ※上記手数料などの合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。
- ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

《ご注意》

- ◎手数料等につきましては、日興アセットマネジメントが運用する投資信託のうち、徴収するそれぞれの手数料等における最高の料率を記載しております。(当資料作成日現在)
- ◎上記に記載しているリスク情報や手数料等の概要は、一般的な投資信託を想定しており、投資信託毎に異なります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■その他の留意事項

- ◎当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託についてお伝えすることを目的として作成した資料です。
- ◎投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ◎投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。投資信託をお申込みの際には、販売会社より、投資信託説明書(交付目論見書)などをあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ず詳細をご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

日興AMファンドアカデミーの
『ファンドのトリセツ』シリーズ

リスク の 本

「日興AMファンドアカデミー」とは?

nikko am
fund academy

投資信託を「つくる」会社、日興アセットマネジメントが
2008年2月にスタートした、投資教育のプラットフォーム。

弊社ファンドを取り扱われている金融機関の販売担当者の方に、投資信託に関する研修をご提供したり、当パンフレットのようなお客様向けの資料の開発などを通して、多くの方に投資信託の本質を知っていただき、より高い理解と納得のもと購入していただくための活動を展開しています。



E 0803

日興アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会
<http://www.nikkoam.com>

ポイント 1 元本が保証されない。

最初に大切なこと。それは「投資信託は元本が保証されない商品であること」への理解。

「基準価額」と「保有口数」の掛け算で金額が決まります

- 1日1回だけ決まる「基準価額」で、購入や解約をします。
- 購入後の評価金額は、そのときの基準価額を保有口数に掛けて算出されます。つまり、あくまでも購入後の上昇「率」が重要であって、購入時の水準そのものに大きな意味はありません。

<例>

8,000円⇒8,800円も、10,000円⇒11,000円も、12,000円⇒13,200円も同じ

- 購入時の基準価額と保有口数の把握は重要です。販売会社から受け取る計算書をしっかり保管しておきましょう。

<保有口数の考え方>

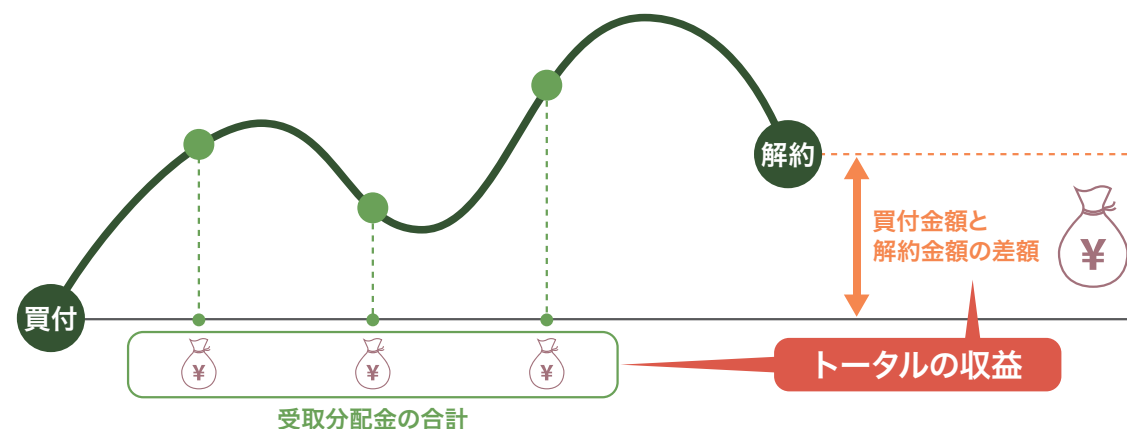
基準価額12,000円、申込手数料1.575(税抜1.5)%の投資信託を100万円分購入する場合の計算

$$\frac{100\text{万円} \div 1.01575}{12,000\text{(円)}} \times 10,000 = 820,412\text{(口)}$$

※小数点以下切り上げ(実際の計算は端数処理の方法によって本計算と異なる場合があります)

「事後的」に収益が決まるのが投資信託です

- 仮に分配金が一定であったとしても、事前に収益(利回り)は決まっていません。あくまでも、「いくら
- の基準価額で解約を行なうか」によって、事後的にトータルの収益が決まります。
- 分配金がある場合は、それを加味して考える必要があります。分配金を加味してもそれ以上に基準価額が下がっている場合など、トータルでマイナスになる可能性もあります。



割合でリスクの種類が変わる。

ポイント 2 割合でリスクの種類が

まずは「何に、どれくらいの割合で」投資するのかわかりましょう。それにより、理解すべきリスクの種類が変わります。

あなたの投資の「中身」を整理してみましょう。

	国内	海外	為替の影響の有無
株式			
債券			
リート(不動産投信) REIT			
その他			

- ほとんどの投資信託は、左の表で整理できるような設計になっています。販売担当の方と一緒に、それぞれの空欄に○を付けたり、商品によっては比率を書き込んでみましょう。
- 投資信託を通じて保有する株式や債券等の「資産」の種類によって、あらかじめ理解しておくべきリスクの種類が見えてきます。

ご注意

バランス型の投資信託の目論見書等に記載されている資産配分比率は運用の経過に伴い変化します。また商品によっては、資産配分比率を柔軟に変える設計のものもあります。

ポイント **3**

それぞれのリスクには 原則がある。

投資信託が投資する資産の価格は、「何がどうなったら、どうなることが多いのか？」という原則を理解しておくことが、リスクの理解につながります。

*本資料で説明するリスクは主なリスクの一部であり、ファンドによって異なります。各ファンドのリスクの詳細は、必ず目論見書で確認してください。また各リスクの表記方法は日興アセットマネジメントのものであり、運用会社によって異なる場合があります。

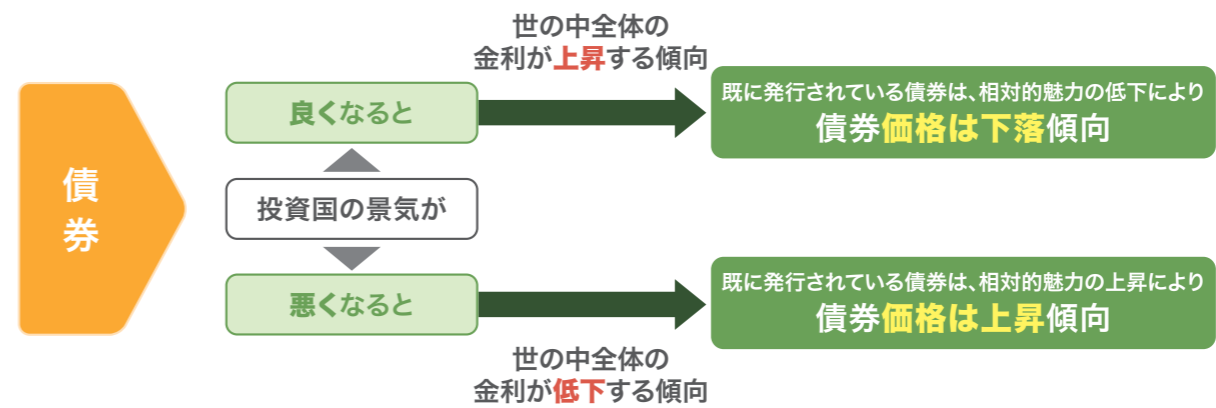


「価格変動リスク」って何のこと？

<目論見書における記載例>

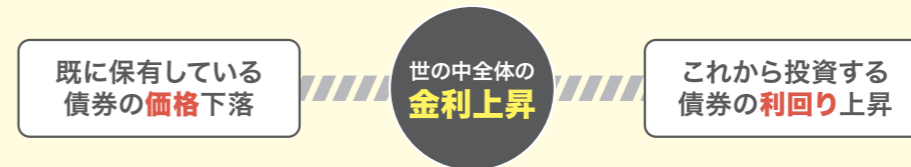
価格変動リスク

- ・一般に株式や不動産の価格は、国内及び国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動します。ファンドにおいては、株式や不動産の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・一般に公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動は、残存期間・発行条件などによりばらつきがあります。



- 日々は様々なニュースで動く株価も、少し長い期間で見ればその企業の業績、すなわち全体としては景気に連動しているケースが多いといえます。
- リートの場合も、景気の変動は不動産物件の空室率や賃料水準を通じてリート価格に影響を及ぼします。
- 例えば「これから良くなる」という期待によって価格が実態より先に動く先行性が、有価証券にはあります。特に株式にはその傾向が強いようです。

投資信託の中の債券投資にとって、世の中全体の金利変化の影響は
いわば「綱引き」のようなもの



- 世の中の金利の変化は、投資信託の中の債券にとって、プラスとマイナス2つの意味があり、いわば両者の「綱引き」になります。
- 投資信託全体としては、金利上昇の場合、一般に左側（既に保有している債券の価格下落）の影響が強いため、基準価額にはマイナスに働くことが多いといえます。

長いものほど大きく動く～債券価格の変動率

- 満期までの期間が長い債券ほど、いわば「先が読めない」分だけ、価格の変動率は大きくなる傾向があります。
- 今後金利上昇が予想される場合等は、投資信託の運用者は組入れている債券を売買して期間を短くすることで、債券価格の下落をなるべく受けないようにすることがあります。

ご注意

価格変動に関する説明は一部の要素かつ一般論であり、実際は様々な要素により価格は変動します。またここに示したものと異なる動きをする場合があります。



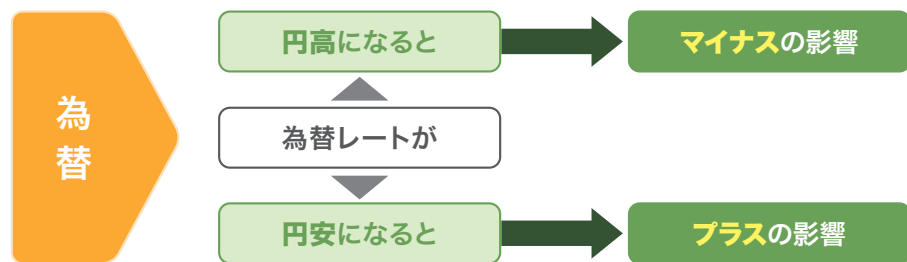


「為替変動リスク」って何のこと？

<目論見書における記載例>

為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価格が値下がりする要因となります。



どんな場合に通貨高(日本でいえば円高)になるか？

- 景気が強い結果金利が上がったり、株価の上昇が期待できる国の通貨は高くなる場合があります。それは海外の投資家が、本国通貨をその国の通貨に替え(その国の通貨を買い)、株式等を買おうとするためです。
- 為替レートは「円/ドルレート」のように、二国間の相対的な関係であるため、例えば日本が変わらなくても米国景気が失速すると、相対的な日本の魅力向上によって円高方向に力が働くことがあります。



「流動性リスク」って何のこと？

<目論見書における記載例>

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない場合、組入銘柄を売却する際に市場実勢から期待される価格で売却できず、不測の損失を被るリスクがあります。

その前にご理解いただきたいこと

そもそも有価証券の取引とは、「売り手」と「買い手」が価格に合意しないと成立しないものです。

- 端的に言えば、保有する株式や債券を売却しようとする場合、その価格に納得する「買い手」がいないと売れません。
- 市場の規模が小さくなればなるほど参加者が少なくなる傾向があり、「売りたい価格を下げないと売れない」リスクが高まります。



「信用リスク」って何のこと？

<目論見書における記載例>

信用リスク

- ・一般に投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・不動産投信が支払不能や債務超過の状態になった場合、またはそうなることが予想される場合、大きな損失を被る場合があります。また、証券取引所が定める一定の基準に該当した場合、上場が廃止される可能性があります。

その前にご理解いただきたいこと

そもそも、「低い信用力=高い利回り」及び「信用力の低下=価格の下落」の大原則があります。

- 例えば国債よりも社債(企業が発行する債券)の方が、信用力が低い分だけ高い利回りが付されていないと買い手が現れない、といった「低い信用力=高い利回り」の関係があります。
- 株式・債券・リートすべてにおいて、何らかの事象によりその信用力に不安が生じると価格は下落し、その不安が和らぐと上昇する傾向があります。

リスクの本
はみ出し情報

投資信託を購入された後には…。

【日々の基準価額を知る】

- ・日経新聞「オープン基準価格欄」 ※一部の投資信託は一般紙にも掲載される場合があります。
- ・弊社ホームページ <http://www.nikkoam.com/>
- ・弊社携帯電話サイト
登録制で基準価額を自動配信します。登録方法はホームページをご覧ください。

【運用状況を知る】

- ・マンスリーレポート
月次等で運用状況をお知らせしています。販売会社で入手できます(弊社ホームページにも掲載されています)。
- ・運用報告書
半年または1年など定められた期間毎に運用会社で作成し、販売会社からお客様に郵送されます。期間中の運用状況に加え、費用や保有する全銘柄等が開示される法定書類です。